

鄂上清生子金錄

第Ⅱ期

第二十五卷

鄂上序

江苏工业学院图书馆
藏书章

第Ⅱ期

第二十五卷

岩波書店

野上彌生子全集

第II期 第二十五卷

第二十七回配本

(全二十九卷)

一九九一年二月二八日 発行

定価四六〇〇円
(本体四四六六円)

著者 野上彌生子

発行者 安江良介

発行所 株式会社 岩波書店
〒101-02 東京都千代田区一ツ橋三十五

電話 〇三三三六五四二(案内)

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目 次

昭和二十二年	……………	一
昭和二十三年	……………	三
昭和二十四年	……………	一六
昭和二十五年	……………	一七
昭和二十六年	……………	二九
昭和二十七年	……………	二四
昭和二十八年	……………	三八
昭和二十九年	……………	三五
昭和三十年	……………	四〇
昭和三十一年	……………	四七

昭和三十三年	……………	四一
後 記	……………	五五
書簡索引	……………	五九

昭和二十二年（一九四七）

小手川金次郎

大分県臼杵町 小手川金次郎様 実子様

実

一月六日（消印七日） 群馬県吾妻郡北軽井沢大学村 野上やへ子

四六

賀正 皆さんおそろひにてよいお正月をなされひ事と存じひ当方も兄上に息子三人とも来山珍しくも大にぎやかな二十九日三十日を過し三十一日にSとY帰京いたしひ。両親と息子三人そろひしはSの外遊以来これなき事にてひ。兄さんもますく元気よろしく私も相変らずびんくいたしをりひ御安心これあり度くひ。さておたづねの午後服は、大体として、モーニングの上衣が黒のセピロに変はつたものと考へればよろしくひ。日本服なら「縫紋」といふところ、ちよつとハカマでもつけて訪問し度い場合の洋服と思へばよろしくひ。正式にすれば、カラもソフトでなくモーニングの堅いカラに黒地に白線のネクタイ。靴も赤皮でなく、黒皮にすべきものにてひも、日本では、ことに当節はカラもソフトで、普通の地味なネクタイですましてゐる人多くひ。しかし本式ではないこと御承知なされ度くひ。右御返事如斯

〔欄外〕茂吉郎は十三日頃まで滞在

さて道郎へカゴシマに帰らなくても、バタが買へるかどうか聞いたのに返事なくひ。返事をよこすこ

と御申つけ下され度く。

力一郎がどうもはつきりしないらしく懸念に存じ。ほんとうの病氣はなにか、根本的に御研究あるべき事と存じ。

兄上は二十日頃まで滞在の予定にて。おもては零下十度以下でも、室内は春暖の温度にて東京よりははずつと快適に過され。

御一同くれぐ御健康にお暮らしなされ度く、昌平氏へもよろしく願ひ上げ。

一月六日

やへ子

金次郎どの

実子どの

兄さんからも書くけれど、今執筆中故あとになります。よろしくとの事也。

藤田圭雄

高崎市飯塚町一五五八 藤田圭雄様
一月九日(消印十日) 群馬県吾妻郡北軽井沢大学村

野上やへ子(葉書)

四元

賀正 早々の御祝詞有りがたく頂戴いたし。

御宅様も御皆とさまおそろひにて御めで度く御加年のおん事なによりに存じ上げ。私と御同年と承はり御老母様のおん事おなつかしく存じ上げ。くれぐよろしく御伝へ頂き度く。手まへ方は暮れには殆んど十年ぶりにて三人の息子たち父と共に来山いたし珍しくにぎやかな二三日を過し只今はあるじいまだ滞在いたしをり。このところすつかり奥さん役にこれあり。しかしス

ピリは一回分は完全に脱稿いたしをり、出来たら二回分も一緒にと存じをりぬ。題名は「グリトリの子供たち」といふのが原名にてぬ。グリトリといふのは若く亡くなつたかみさんの名まへにてぬ。遺児の二人の子供が主役にてぬ。誌上では適当に変へてもよろしくぬ。一回は少と陰気にてぬが、二回目よりおもしろく発展いたしぬ。まづはとりあえず御返事のみ。 九日

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八 野上豊一郎様
(二月)二十一日(消印二十四日) 群馬県吾妻郡北軽井沢 野上やへ [葉書]

四三〇

御無事御帰京にて本日よりはすでに大学行き的事と存じます。出立の日はわりに暖気なりしも今朝はマイナス四度の寒さになり、丁度よい頃にお引きあげになつたと悦んでをります。やつぱり野島邸なりしや。東京の寒冷くれぐれお大切に念じ上げぬ。お帰りの翌日保科孝一氏より手紙。能装束の評価を乞ひたる趣旨にてぬ。封筒破れをりぬまま廻送いたさずぬ。その他は寺島氏よりハガキ靴は岩波からとりに行かせるから東京まで持ち帰りおき願ひ度しとのこと。これも丁度よろしかつたと存じぬ。油をつけたきれでよく拭かせて返して下さい。少しカビてゐますから。『人間』から「転生」の原稿今日返送して来ましたので、明日書留速達でお送りします。新潮の広告もやつと出たので、これですべての原稿そろひぬ。小山へ早速かかること御話し下さいませ。それでは当用のみ。三枝子へはいづれゆつくり手紙をあげると御伝言下さい。

黒岩シンケイ痛にて、チッキは出せぬかもしれませぬ。

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八 野上豊一郎様 原稿 書留速達
二月二十五日(消印二十六日) 群馬県吾妻郡北軽井沢大学村 野上やへ

四三

藤田氏から同封のものを送つて来ましたので、よろしくお願ひ致します。

今度訳するのは『グットトリの子供たち』といふ題名。書物は布川夫人の手にありますから、それを御らん下さいませ。書きこみすんだら実業之日本社の藤田圭雄あて御送り下さいませ。御帰京以来の消息に接しません。少し手を入れるところあり、その上で書き込んだ雑誌をそちらへ送りますか。

新潮昨日参りました。少し手を入れるところあり、その上で書き込んだ雑誌をそちらへ送りますか。それまで小山渡しお待ち下さいませ。お帰りの後三四日痛烈——といつても○・四度、六度——でしたが、一昨夜から昨日降雪、今日は春にひとしき美しい晴れで、東京もどうか暖かになつてくれる事を念じてゐます。

今日はとりあえず右当用のみ。

くれぐれおからだ大事になされ、無理せぬやう念じ上げ

二十五日朝

やへ

父さま

三枝子へ昨日手紙だしました。

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八
一月二十八日(消印二十九日)

野上豊一郎様 ①
群馬県吾妻郡北軽井沢

野上やへ (葉書)

四三

一月二十日出しのお手紙ケンエツにてやつと今日落手いたしました。途中大変なりし様子も分かりました。しかし御無事御帰り御元氣よろしく安心いたしました。こちらのその後のことはすでに書いてさし上げし通り御安心下さい。送り出した「人間」の原稿、直し入りの「新潮」もこのハガキ着の頃は、すでにお受けとり下されてゐる事と存じます。

野島邸の様子も分かりました。先方の欲しいもの、こちらの欲しいものにつき、早速レンラクをとりませう。このあとで手紙を書いてあげるつもりです。加藤氏が軽井沢病院長とはよいあんばいです。なにかと便利がえられる事と存じます。今度父さん来山の時、いつしよに訪ねることにしませう。私はまだ机仕事にはかからず、ふとんの鼠のいたづらをやつと修繕したり、方々に御無沙汰のおわびとSのやどの依頼を書いたりしてゐます。

今日はこれで終りませう。Sに今日お誕生祝のしるしにクツ下を送り、雑誌を送つた序でに落合氏にバタを(二)ポンド送り度く封入いたしました。菊池氏にはチャコを一箱送りおきました。れいの黒岩でこんな事ひどく便利です。野島氏とのレンラクも彼が使えるでせう。それではくれぐれ元氣で風邪ひかぬように。Y・Mによろしく。三千子のこともよいあんばいです。

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八
一月三十一日(消印)二月一日

野上豊一郎様
群馬県吾妻郡北軽井沢大学村

野上やへ子

四三

一月三十一日

拝復 二十六日おだしのハガキは順当に昨日つきました。「人間」のも二通御落手下されし由、「新潮」直し入りもすでに御落手の事と存じます。万事よろしく。今日午後かららしいの財産税のことで事務所に行き、こちらの評価をとかくお知らせいたします。この手紙を封じないで出かけ、それをきいて書き入れて出すつもりです。市河氏のもの。——考へて見ますとうちのは、「林間」は一度も法的にもんだいにされてゐなかつた位ですが、ホケン金の封鎖があり、それに毎月の父さんの封鎖を入れるとほぼ十万円にはなりませんのでせう。それにこの北軽を入れるとして。——戦災者にはサツピキがあるから、とどけ出しても、免税になる程度かと信じますので、とにかく最低額だけとどけておいてはと存じます。後で面倒な事になつても、父さまの今の身分上どうかと存じますので。——とにかく全額ハチキあげた上で、半田氏によりしく御相談なされ度く念じます。

私も一人になつては少しもうたひません。昨夜巴をうたつて見たら、アハレな声で、父さんとがなりつづけた頃の名吟?はどこかへ退散。まことに練習は、その怠たりのおそろしさは呆れられます。父さん、うたひ会のまへにはウンとうたつて出かけて下さい。さうして、あの時のバクチに負けた形になるほど熱心にうなつて下さい。ヘンな調子つばづれのうたひにはならないで下さい。寺島氏より鞆は「岩波」のものをとりにあげるから、東京まで持ち帰り頼むとのハガキが父さんの帰

京後つきましたので、私から返事を出し、イリコ少と送つておきました。終り！

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八 野上豊一郎様 速達
二月一日(消印三日) 群馬県吾妻郡北軽井沢 野上やへ

四四

二月一日

ゼネ・ストもそのま際でとめられるであらうと思つた通りになつたので、早速昨日出した手紙の補足をします。こちらの土地の単価その他は、安東が直接に、市河家のもいつしよに知らせたとの事故、ここには書きませんが、家屋チンタイ価格は、こちらのは一ヶ月のチンタイ価であることを御承知下さい。もし八十五円となつてゐれば、一ヶ月はその十二分の一の金額になります。

戦災者及び引揚者一人につき五千元の控除とすれば、うちは十二人で、六万円の控除になりますから、すつかりハヂキあげても十万未満かと存じますので、正直に計算した方よいと信じますから、私の封鎖預金額を念のためお知らせ致します。

封鎖 六千四百九拾円、株式会社八十二銀行(軽井沢町)
四千三百三元 北軽井沢郵便局

四百七十二円 住友銀行成城支店

以上の通りです。念のために。――

田辺夫人からSの宿として北白川のアバートの話あり、それにつき今日Sに手紙を書くところです。夫人の懇意な未亡人の叔父の経営。アメリカに長くゐた人で、親切に学生たちの世話をする風。食

事も拵へてくれてゐた由、(田辺夫人が京都にゐた頃までは)その姪の池田さんといふのに、田辺夫人からも依頼してくれるとのこと故、これが出来たら、学校にも近く好都合と信じます。田中秀央氏の家の近くらしくい。

それでは今日はとりあえず当用のみ。野島夫人よりハガキ、M・Rが一斗あるから入用ならデンプオくれとの事故明日打って、そのうち黒岩をとりやるつもりです。60とのこと故、高くないと思ひます。またカンモチニウス出来ます。少し送り度くおもつてをります。

くれぐれ御身お大切に。

父さま

やへ

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八 野上豊一郎様 書留
二月七日 群馬県吾妻郡北軽井沢大学村 野上やへ

四五

二十九日附の御ハガキ一昨日頂きました。出版届も新潮の直しも御落手下されし由にて、御手数をおかけいたします。「中公」から長谷川氏が来たとのこと。新潮社を加へて三社の競争になつたわけにて、やあ公このところ大人気とおかしくい。まだくもつとよいものを書き度くい。この頃あまり寒いので、「魔の山」などによみふけり本気に執筆にかゝらず、明日あたりからと考へをりい。昨日の立春とともに、日射し思ひなしか和ごみい。しかし朝はこの部屋にて今朝も○・六度。二三日までは○・八度になりい。ロビンソンもやつと出来の由お序でにお送り下され度く、リュックは特別には急がず、カバンとともに、汽車の小荷物がらくに出せるやうになつてお送り下され

てもよろしくい。しかし最小型のもの——麻のなら——小包でもよいわけ故、どちらにても御都合にお任せいたしい。ザイサン税については先便にしたためおきいにつき、すでに御らん下されし事と存じい。軽井沢より写真とどきいにつきお送り申上げい。二人のは三月号のホープにのせるとのこと。へんな様子ながらわりに自然にてよそ行きでないところが却つてよかつたと存じい。二人のは一枚しか送り参らずいまま、御保存下され度く、一同のは五枚故、SにもMにも送つてやり度くい。カンモチは沢山つけなかつたから、今度はSとMへ少と送る事にいたし、そちらへはまたつけたらその時にいたしい。Sのやど、田辺夫人の世話にて北白川のアパートに手蔓つきしことお知らせいたせしや否やちよつと忘れ申い。今度の日曜日に行つて見るやうSに申やりい。そこに空室あれば、なにより好都合と存じをりい。Rはまた学校の黒岩の手より入手の筈。安東も先日ゴシヨウほど持参。夏休みに備へ、慾張るつもりにい。

父さま

やへ

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八 野上豊一郎様 平安
二月十一日(消印十二日) 群馬県吾妻郡北軽井沢 野上やへ子

四三

二月十一日

おハガキ二枚頂き放しにて御無沙汰いたしをりい。東京の〇・五六度は大変と存じをりい。くれ

く風邪めされまじく、お元気よくお過しのほどを念じをりぬ。私はまたぼつ／＼机仕事にとりかかりをりぬ。ボロとぢや、洗たくものをすましてと思ひしも、この寒気にてはシートなど板になるだけ故断念の上仕事の方に逆戻りにてぬ。「鍵」といふ題。すら／＼と思ひのままに書くつもり。これも同じく北軽ものになりぬ。補遺が出来てもよいわけと存じぬ。

この手紙つく頃は財産税も申告済みと存じぬ。平塚さんなど、家を売らなければ納入不可能とのこと、先日主人公が相談に来山。それも茂子さん名義の故にて、第一封鎖の四万あまりも茂子氏のもの、主人公は一文もない由、それでこの五月貴院廃止となれば生活費も息子へかかるわけにてぬ。貴院など、今はその話以外はなき風にてぬ。それを考へれば私たちは家が焼けて却つて生活方式も一変せられ、幸運なるかなと思ひしむぬ。

封入のものは、生活社と日本評論社の印税申告の通知にてぬ。小学館なども来るかと存じぬ。申告した方有利と思はれぬにつき、お送り申上げぬ。

RまたS・O・Sの様子。こちらは方々に手渡りをり、夏休みにたいするストックのつもりにてぬも、どうしても困まればチッキとして出す方法も考へられぬ。御意見お洩らし下され度くぬ。Yがせおひに来るのも、学業の妨げと案じられぬ。しよつて、チッキとすればベタなれど、キップだけ買つてのチッキにても四五升は送りだし可能かと存じぬ。おさしづを待ちぬ。十三日に黒岩を野島さんへ出す手筈になり、今日打電いたしおきぬ。これはM・Rなれど一トとれ申ぬ。

水野伊太郎氏よりも手紙これありぬ。あんな有能な人は埋もれ木には致し度くなくぬ。あの人たちが先生、先生といつてくれるのは、ほんとうの情愛よりと信じられ、うれしくぬ。

一昨々夜は春雪小一尺ふり。さすがに柔らかに水つぼく、如何にも春になりたるかんじをあたへ。今日も微陽にてわりに暖温、朝〇・二度。それでまた今夜あたりはふるのではないかとおもはれ。これから正子のところ入浴へ参り。

Yも学季末にて忙しきことならん。モキ以上の成績をとれ、と御励まし下され度く。三枝子へは、イリコはつきしだい送ると御伝言をたのみ。

父さま

やへ

Sより手紙。金がないので不景気らしくも、月末の三百円送金まではそのままにするつもりにて。オモチを送り。今日あたりつく頃にて。そちらへは、このつきついたらお送りするつもり也

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八
二月十八日夜(消印十九日)

野上豊一郎様
群馬県吾妻郡北軽井沢

野上やへ子

四七

啓上、しばらく御消息に接せず、検閲かそれとも多忙か、もしか風邪でもと思つてをりますが、それなら三枝子よりの手紙になんとかありさう故、やつぱり忙しき故といたし、安心致しをります。さて同封の手紙美濃部夫人より参りました。お孫さんの朗子さん、今春荻窪を受験するにつき、紹介してほしいわけです。石原氏に紹介されるし、又父さんが直接訪問することも出来ようと返事しておきました。石原氏への紹介は民子さんでなく、お母さんの名義、即ち

美濃部亮吉氏夫人百合子氏紹介

といふことになります。よろしくお願ひいたします。

民子さんのアドレスは、吉祥寺九五二です。

こちらは二月らしい雪空がつづいてをりますし、雪もまたよく降りますが、なんとなく湿つばい雪になりました。私は仕事順調で、もう半ピラ五十枚になります。今月末にはむづかしくとも来月早にはすみます。芸林^{閑歩}でしきりに欲しがつてゐますが、出来工合と長さでどこで発表させるかを決めるつもりです。財産税はどの位の申告になりましたか。それではいづれ御様子で分かつた上あらためて。くれぐれ御からだお大事に。

二月十八日

やへ

父さま

野上豊一郎

東京都世田谷区成城町四十八 野上豊一郎様 平安
二月二十一日(消印二十二日) 群馬県吾妻郡北軽井沢

野上やへ

四六

二月二十一日朝。今日は私も執筆の日課を休み、これを書き、そのあとユーピン局その他の「北軽」用を果します。

さて昨日は久しぶりに長い手紙で、その後の様子も分かり、また御病気でなかつたことも分かり安心いたしました。雪とか、大雨などの節は、学校に出ない方よいと存じます。小包もどきました。ロビンソンは、丁度魔の山読了につき、夜のよみものにしませう。山彦はほんのかき集めもので、わざ／＼諸氏にあげる気にもなりません、しかし名簿だけはお知らせいたしませう。下掛の会に

アベさんが一万円だす、うちが五千円だすなんて、変はれば変はるものです。父さんかやあ公が、どこか病気で入院したより結構ですから、御心配なくおだし下さい。アベ夫人に先般手紙だしました。返事来ません。学校あてに出したので、どこかに紛れこんだのではないかと念じてゐると、お逢ひの時——能成氏でもよろし——きいて見て下さい。用事としては、京都に宿の手蔓あつたら、心掛けてほしいとの依頼です。

財産税も、そんな事ですめば結構です。それにつけても渡辺町の焼けたのは幸運でした。書物だけ思ひきれば。——学校も三菱からのもので当分都合よく行く事を祈つてをります。この節は中川池島のイガミアヒもないかと存じます。父さんが中川を庇ふ顔を見せてあげれば、中川は悦ぶのだと存じます。今文部省に入つたつて一二ヶ月で、議会の答弁にイチメラレに行くだけではありません。そんな愚を犯すよりも、どこまでも法政の野上先生で終始すべきだと信じます。四月下旬の越後旅行には、ぜひ一緒に出掛けませう。私はあの方面をまだ少しも知らないのですから、たのしみです。それまでにうんと仕事を片づけておいて出掛けませう。米原ヴィアの方よいのなら、その時帰京して、三千子にもちよつと逢へませう。全く風邪ひかせてはダメです。私からも三枝に申しませう。

出版一束——小山がそんな気持なら、『山姥』といふ題にして下さい。その方がいつそよいでせう。巻頭の『草分』を使つてもよいが、一般的には耳遠くなりさうですから、山姥の方ベタです。それにしても、まだそんな評定で着手しないのは困まります。山姥で早速かからせて下さい。『真知子』は順当に進行してゐるさうです。小野氏から知らせあり、用紙の都合で菊判にし度いとの事故それでもよいと返事しておきました。